

イヤシノクウカン

ゆったりとした空気感の漂う店内で
あなたの心地よい時間を過ごす…

英国式リフレクソロジー

誰もがリラックスできるフットリラクゼーション

プチリフレ 25分コース 2500円

フルリフレ 50分コース 5000円

オイルオプション有り

スタッフ募集!

美容技術者で独立をお考えの方
将来独立を目指されている方優遇

MENU

CUT	4000円~5000円
PARM	5000円~
COLOR	5000円~
POINT MAKE	2500円~
FULLMAKE	3500円~
EXTENSION	30000円~



P.O.P.HAIR

〒604-8075 京都市中京区麩屋町通三条下ル
白壁町442 FS* BLD3F TEL.FAX.075-254-5911

**HAR A TELER
STEP**

〒607-8084 京都市山科区竹鼻立原町24-15
TEL.FAX.075-592-6313

<http://home.rasysa.com/ha-step/>

POWER PLAYSOUND

Music is moistened our life.
Tasteful album is here.
We'd like to find your recommended one.

時流でもジャンルでもない
肝心なのはクルかコナイか



TOYS IN THE ATTIC
AEROSMITH

輸入盤
「70年代というのは、ロックらしいロックが生まれた黄金期。この時期のバンドはそれぞれのパートがしっかりした個性を持った。エアロスミスは正にそのうちのバンドで、このアルバムが一番彼らしいと思う一枚」



ALL AMERICAN BOY
RICK DERRINGER

輸入盤
「ひそかに全米トップも取ってるくらい目立たない(笑)。第一線の人気者ではないけど、その赤手でない分だけ自由に音楽を追求してるところに惚れる。キタリーにも影響を受けたし、渋い仕事をしたのは彼の理想だ」



THE BOYS ARE BACK IN TOWN/JANGO

MIXED NUTS RECORDING 1680円(税込)

「僕がギターを始めるJANGO、4年のブランクを経て再結成しました! 8人の大所帯ならではの賑やかさと、ポップすぎずコアすぎないJANGOらしさがくっきり出てくる復活アルバム。2曲目のREACH MEは、メジャー時代にリリースしそこねた思い入れの強い曲」



HEAVEN TONIGHT
CHEAP TRICK

輸入盤
「チープトリックもまた、ポップロックの源となったグループの一つ、当時を思い出すやっとなあとは思いますが、ただそれだけでは終わりにくれない。彼らの音を聴くことで、新しい音楽の進化を鼓舞したいなと思います」



金曜夜はαステーション
後藤 晃宏
DJミュージシャン

「89年の「JANGO」結成当時から、オリジナルメンバーとして笛吹き役(でもパートはギター)を担ってきた後藤さん。メジャーでのバカ売れも経験しながら、ここ4年は活動休止。メンバーは各々それぞれの音楽活動に注力していた。その復活第一弾となるミニアルバムほか、彼のルーツと思われる3枚のCDを前にして、世の音楽ビジネスとミュージシャン魂とのせめぎ合いが浮き彫りになったかのよう。「僕の中でロックといえば70年代。良いものが正当に評価され、良いものを生み出し育てる土壌があった」。ただのフィーバーと熱い表現が同義ではなくて、とにかく今のうちに「イージー」ではなかった時代を彼は経験している。だから現在、カテゴリー分けとか売れセンダとかのラベリングで世の中が動いているのが少し歯痛い。「レーコーディングもCDのコピーも、イージーに出来すぎるでしょ。やっぱり自分が、来た!と感じたものなら身銭を投じて捕まえるべき」。それが結局、全ての成長につながるのだ。自分も、音楽も、社会も。

ダブルロールズ ミュージシャン



「はっぴいえんど」のポップセンス、「ヒーチボーイズ」のコーラスワークに衝撃をうけ、バンドにも反映されている」と松尾さん。「ライブは月一でコツコツと」。春にはアルバムをリリース予定

ワンフロアを任せられ、「充実感がありますよ、お客に喜んでもらえたら心底嬉しいしね」と、彼のこの素直な気持ちも、耳にスルッと溶け込むサウンドに相通じるものがあるのかも

「ロビンス」info.

- 1stマキシシングル「サニーアップ」1200円、Oook recordsより発売中
 - ライブ 2/17(月) 難波ペーアズ
 - 掲示板
- <http://6928.teacup.com/robins/bbs>



「現実」の二文字から二足の草鞋(ダブル・ロールズ)を天秤の皿の上で履かざるをえない音楽人。夢と生業を計りにかけつつフルタイムで稼ぎ、音楽をこよなく愛する巨星。それが「ダブルロールズミュージシャン」。

「ロビンス」の 松尾法生

Vol.01

日常にリンクする
デイリーミュージック

思わず京都の町並みを連想させられる歌詞、昭和の匂いを漂わせつつも何処か新しいポップセンスが光る音、それがロビンス。V&Bを担当する松尾法生さんは、高架下のパーティールームで働きながら活動を続ける。「仕事はキツイけど、僕を社会と繋いでくれる大切な接点。ホントは音楽だけに没頭したいけど(笑)」と、少々はにかみながらも仕事に対する気持ちは忘れないのは「この日常があってこそ生まれる曲」があるから。だからこそ共感するファンも現れた、大切な日常を客観視できる今こそが、ロビンスのスタイルを確立していく時期なのだ!